

6. 函館市

月 日	時 間	活動内容		
10月1日 (土)	10:30	羽田空港出発 ANA553便		
	11:50	函館空港到着		
	12:30 ~ 13:30	昼食		
	14:00 ~ 15:30	オリエンテーション、ディスカッション開会式、地元参加青年顔合わせ		
	16:15 ~ 17:30	五稜郭タワー視察		
	17:45 ~ 19:30	夕食会		
10月2日 (日)	9:00 ~ 12:00	3コースに分かれて視察		
		環境コース	教育コース	文化コース
		「環境にやさしい農産物と食」 (ついき農園とニール)	「地域の魅力を発見」 (北海道教育大学函館校)	「歴史的建築物の活用と移住」 (元町まちあるきと古民家視察)
	12:00 ~ 13:00	昼食		
	13:00 ~ 17:00	ディスカッション		
	17:30	ホテル到着		
	18:00 ~ 20:00	交流会：パフォーマンス		
10月3日 (月)	9:00 ~ 12:00	ディスカッションまとめ、発表		
	12:00 ~ 13:00	ローカルユースとの昼食会		
	14:00 ~ 16:00	大沼エコツアー		
	17:00	ホテル着 (函館市内) 夕食 各自		
10月4日 (火)	10:00 ~ 10:30	函館市表敬訪問 *市代表挨拶 *ラオス代表挨拶 *記念品交換、写真撮影		
	11:15 ~ 12:15	函館蔦屋書店視察		
	12:30 ~ 13:30	昼食		
	14:00 ~ 15:30	公立はこだて未来大学講義		
	17:30	函館山ロープウェイ到着		
	18:00 ~ 20:00	歓送会 *実行委員会代表挨拶 *バーレーン代表挨拶 *よさこいパフォーマンス		
10月5日 (水)	9:00	函館朝市視察		
	11:35	函館空港出発 ANA746便		

季節柄、寒さが心配された函館でしたが、受入れの5日間はほぼ全日程で爽やかな秋晴れに恵まれ、温かな日差しのもとでのプログラムを行うことができました。

初めの3日間は道内各地から集ったローカルユースたちとのディスカッション・プログラムを行いました。環境・教育・文化の3コースに分かれて視察を終えた後、まず議論をリードしたのは、やはり外国青年でした。ローカルユースたちは英語での議論に慣れず、初めはためらった様子でしたが、ラオス、バーレーン青年たちに促されながらだんだんと積極的に参加し、最終日には各コース一体となって素晴らしい成果発表を披露してくれました。発表後の昼食会では、すっかり打ち解けた様子で連絡先を交換し合う光景が見ら

れました。

ローカルユースと別れた後は、大沼公園、函館蔦屋書店、はこだて未来大学などを訪問し、函館市を様々な角度から視察していただきました。外国青年たちはどの視察先でも積極的に質問し、4日の夜には歓送会ですばらしいダンスや結婚式を模したパフォーマンスを見せてくれました。

ラオス、バーレーン青年たちの率直で力強い質問やコメントにより、私たちは函館市の新たな一面を発見することができました。また、ローカルユースたちはラオス、バーレーンへの訪問を約束し、目を輝かせていました。本年の受入れが、2016年の函館にとどまらず、未来につながり、世界に広がっていくものであることを心より願っております。

ディスカッション参加青年 野々田 智大

今回の事業参加を通じて特に感じたことは二つあります。一つは、世界中の環境と食がどのように循環しているか。二つ目は国籍を超えて互いを思いやり、協力できることです。

環境と食では、農薬などの薬品が人、環境にどんな影響を与えるかを学びに自然卵・有機野菜栽培の農園を見学しました。今は人参が収穫時期をむかえており、とれたての人参はカリッとした歯ごたえと自然な甘さ、みずみずしさがありません。「安心して安全な食べ物物は当たり前。農薬を散布すると今年は良くても土に残り、翌年の野菜に影響してしまう」とおっしゃっていました。鶏も飼育しており、雑草や人の食べ残し、普通なら捨ててしまうものを与えることで廃棄の減量に貢献しています。「人が食べるものを与える。フンは畑の肥料となり、その畑で人は野菜をいただく」と説明され、循環が成立するのは有機野菜を育てているからだだと確信しました。

見学の後、バーレーン、ラオス、日本と国が違う中で何ができるのか議論し、発表をしました。日本人同士だと、察しあい、それとなく準備が進むのが一般的です。しかし、背景の異なる人が足並みをそろえるのは容易ではありません。ですが、自分たちの意見を言

い合い、受け入れ、違うと思ったら言ってみる。新たな意見が生まれ、良いものを創り上げられました。主張するだけでなく、妥協するわけでもなく、目標に向かって互いを尊重し合い、作り上げることが国を超えて可能だと、日本にいながら実感しました。

事業を終えて日本の問題、世界各地の課題点を各国の人と知恵を出し合い改善していく、そのようなことができたらいと思える将来につながる交流会にできました。



サバイディー。ラオス団から御挨拶申し上げます。ラオス団の大半のメンバーにとって日本や北海道函館市は初めての訪問でした。函館市で過ごした時間は私たちにとって忘れ難く、言葉で言い尽くせない素晴らしいものでした。10月1日、函館市に到着した時のことを覚えています。その日に地元青年と顔合わせをしましたが、今では彼らは「友人」になりました。函館市の友人と多くのスタッフはとても楽しく親切で、私たちはすぐに打ち解けることができました。彼らとの様々な楽しい活動を通じて私たちの函館滞在はあっという間に終わり、忘れられないものになりました。ディスカッション、遊び、素晴らしい施設訪問と様々なありましたが、私たちの距離を縮めた出来事の一つ挙げるとすれば、それは10月2日の夜でした。その夜は文化交流会があり、私たちにとって最高の夜になりました。私たちが披露したのはシンプルで伝統的なパフォーマンスでしたが、私たちの感覚は他の場所で披露した時とは全く異なるものでした。全員の注目を浴びて舞台上に立っても、ストレスや恥ずかしさを全く感

じなかったのです。それは、観客が私たちの友人だったからです。とてもすてきなパーティーでした。

もう一つ、函館市で最も良かった活動は、コース別の課題別視察でした。この活動を通じて私たちは多くを学び、豊富な知識を得ましたが、最も重要なことは、皆でアイデアを交換し、各国の類似点と相違点についてディスカッションしたことです。さらに、理解できないことや問題があっても、親切な友人とスタッフの助けを借りつつ、一つのチームになってコース発表に取り組みました。

一方、函館市のプログラムに関していくつか意見があります。四日間の滞在中、二日間しか地元青年と過ごす時間がなかったことです。最初の二日間で、各団のメンバーと地元青年は距離を縮めました。そこで時間切れとなってしまいました。彼らがいなくなったからの二日間、私たちは一人ではなかったものの、寂しさを感じました。結局、私たちは地元青年ともっと共に過ごす必要があるのです。



函館市訪問中、私は最後の将軍と徳川将軍家についての関心を満たし、様々な疑問への答えを得ました。五稜郭タワーでは、将軍が政権から退き、天皇を擁する新政府に追われた旧幕府が函館へ逃れたことなど、青年ボランティア、インストラクター、アドバイザーの皆様のお陰で、様々な学びを得ることができました。個人的には、東京の江戸東京博物館を訪れて、1700年から明治維新までの江戸・東京の様子を見ることができ、非常に満足でした。日本の建築、芸術、音楽、文化などつぶさに観察しました。江戸・東京の町人、農民、侍など人々の日常生活に触れることができ、とても良かったです。

函館の博物館の訪問は素晴らしい経験で、まるで映画のエンディングを見ているような気がしました。江戸・東京時代の生活様式に関してではありませんが、教育、科学技術、経済、そして数百年間ゆるがなかった社会構造に近代化と進歩をもたらし、すべての日本人の未来を大きく変えた最後の戦いについてがありました。

歴史の話はさておき、北海道は私たちが訪問した中で最も美しい場所でした。環境に配慮が行き届き、春でもないのにどこもかしこも美しく優雅でした。農村

と公園は息をのむように美しく、私たちは他では見られないその美しさをできる限り写真に収めました。さらに函館には独自の文化と踊り（いか踊り）があることに驚きました。さらに驚いたのが、いか踊りには歌詞に合わせてそれぞれ振り付けがついていたことです。

グループ・ディスカッションでは、果物と野菜を一年中輸入することによって、日本、そしてラオスとバーレーンの経済が受ける影響についても話し合いました。例えば、日本では冬にトマトが収穫できないため、政府が国民のニーズに合わせて様々な国からトマトを輸入する必要があります。これは余分な支出です。私たちはこの問題について、日本だけではなく他国にも有効ないくつかの合理的な解決策を考え出しました。一つ目は、季節を問わずあらゆる作物を栽培する温室を作ること。二つ目は輸入食品への意識を高め、より保守的になることです。

最後になりましたが、函館は他の場所とは異なる特徴があり、私の心の中で常に特別な位置を占めています。桜が満開の春にまたここを訪れたいと思っています。

